

平成30年 3月

# 菓裕貴 学位論文審査要旨

主 査 汐 田 剛 史  
副主査 磯 本 一  
同 岡 田 太

## 主論文

Protoporphyrinogen oxidase is involved in the fluorescence intensity of 5-aminolevulinic acid-mediated laser-based photodynamic endoscopic diagnosis for early gastric cancer

(早期胃癌に対する5-アミノレブリン酸を用いたレーザー光線力学的内視鏡診断の蛍光強度にはprotoporphyrinogen oxidaseが関連する)

(著者：菓裕貴、神田努、河口剛一郎、八島一夫、孝田博輝、荻原久美、松島加代子、中尾一彦、齊藤博昭、藤原義之、尾崎充彦、岡田太、磯本一)

平成30年 Photodiagnosis and Photodynamic Therapy 掲載予定

## 参考論文

1. 浸潤性膵管癌に対する合成セクレチンを用いた膵液細胞診の診断能

(著者：武田洋平、松本和也、孝田博輝、山下太郎、菓裕貴、斧山巧、川田壮一郎、磯本一)

平成29年 胆と膵 38巻 741頁～745頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は早期胃癌に対するレーザー光線力学的診断 (LPDED) の有用性と、その蛍光性に  
関与する因子を早期胃癌の切除標本を用いて免疫組織学的に検討したものである。その結  
果、胃癌の組織型によりLPDEDの蛍光性に差があり、組織型によりポルフィリン代謝関連酵  
素であるprotoporphyrinogen oxidase (PPOX) の発現量に差を認めた。すなわち、印環細  
胞癌では全例でLPDEDが陰性であり、PPOXの発現量が低下していた。さらに、外科切除標本  
を用いて、組織型とPPOXの発現量に関連があることを明らかにした。本論文の内容は、胃  
癌に対するスクリーニング検査の現状の問題点と課題を明らかにし、LPDEDの有用性を示唆  
したものであり、明らかな学術水準を高めたものと認める。